

## 2020年度受賞者の受賞コメント

この度は京都大学久能賞という名誉ある賞をいただき、大変光栄に思っております。

例年と変わらず美しい桜が咲いた2020年の4月。心待ちにしていた入学式は行われず、オンライン授業のためにパソコンに向かう日々が始まりました。世界中で新型コロナウイルス関連の痛ましいニュース報道が後を絶たず、不安に駆られる毎日が続いています。しかしこの状況下でも私の知的好奇心を刺激する興味深い授業や、自由の校風といわれる京都大学の環境を通じて得た多くの知見が、私の「夢の種」を発芽させています。

私が抱いている夢は、医療を工学的なアプローチでサポートすることです。そのきっかけとなったのが、中学生の時に見たロボットチアリーディングのパフォーマンス動画です。その可愛いフォルムと最先端技術により生み出される一糸乱れぬパフォーマンスに心を動かされ、ロボット作りを学び始めました。高校3年生の時には、入院患者と一緒に体操をするロボットを製作し、医美同源デザインコンペティションで優秀賞を受賞しました。その際に審査員長であった病院の院長から次のようなお言葉をいただきました。「今、医療従事者が不足している。今後は工学を用いて、患者だけでなく医療従事者をサポートして欲しい。」実際に厚生労働省の推計によると、2025年には看護職員が最大27万人不足するそうです。さらにこのコロナ禍で私の夢は明確になり、医療現場における工学の力は患者をサポートするだけでなく医療従事者の負担を減らすために、これから最も必要であると思うようになりました。

京都大学1回生となった今年度は、医療従事者を中心にコロナ禍による不安で眠れない人が多くいるというニュースを聞き、そのような人々の入眠を助ける装置の開発に取り組みました。その結果、Raspberry Pi 財団賞を受賞することができました。技術的にはまだまだですが、これから大学の環境や授業を通じて電気電子の基礎を幅広く学び、また技術面だけでなく、人間と機械の最適な繋がりを研究し、医療福祉現場における最善な仕様を模索していきたいと考えております。

久能賞の受賞は私のこれからの大学生活や研究開発において、大きな支えとなります。この度のご支援、誠にありがとうございます。

工学部電気電子工学科 阿部 玲華